

平成 29 年度

事業所名 : グループホーム おもつべ

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0390200210		
法人名	医療法人仁泉会		
事業所名	グループホームおもつべ		
所在地	岩手県宮古市田老字重津部34番77		
自己評価作成日	平成 29 年 10 月 8 日	評価結果市町村受理日	平成30年2月26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.nhl.w.go.jp/03/i.ndex.php?acti.on.kouhyou_detai.1.2017.022.kani=true&Ji.gvosyoCd=0390200210-00&Pr.fCd=03&Ver.si.onCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通二丁目4番16号
訪問調査日	平成 29 年 11 月 21 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

昔からの季節の行事、旬の食材を活かした食事などを提供し懐かしんで頂いています。(調理師2名) また、自然に囲まれており暖かい日はウッドデッキにて昼食を摂ったり、外で炭焼きや、バーベキューを楽しんでいます。 介護予防教室(こびりの会)を継続し、地域交流バーベキューや、地域交流運動会(単独では今年度が初めて)では、多数の地域住民の参加がありました。地域の方には認知症の予防と理解を少しでも深めて頂きたい事から、認知症サポート養成講座の開催を予定しており、ホーム内では、認知症の緩和を目的とし学習療法を行っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

理念は「いつも笑顔で共に歩いて行く」とし職員の心構えを「おもいやり・目配り・気配り・心配り」として職員間で共有に努め、日々の実践に繋げている。開所4年目であり、地域との繋がりを重視するホーム長の強い信念により、事業所独自の介護予防教室(こびりの会)を継続しており運動会やバーベキュー等の行事には多くの方々が参加している。行事食は殆んどを職員が手作りし利用者・家族と共に地域の方からも好評を得ている。運営推進会議を避難訓練日に実施し防災意識の高揚や地域協力体制の構築を図っている。また会議に近隣の福祉事業所職員が相互に出席し合い交流が図られサービス向上につなげている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

【評価機関:特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会】

平成 29 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム おもつべ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員心がけ(目配り・気配り・心配り)を常に意識し入居者をはじめ地域の方、ご家族と共に笑顔で歩んでいけるように努めている。	理念を達成するため職員の心構えを「目配り・気配り・心配り」として共有している。「いつも笑顔で個々に寄り添い共に歩く」思いを形にすることで信頼感を醸成、日々の実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ホーム内の行事には地域の方の参加があり、利用者の顔なじみの方と楽しいひと時を共有出来ている。また、社会との繋がりを感じて頂けるよう、買物や、外食に出かけている。	地域との関わりを重視し、全世帯に催しの案内を届けており、運動会等の行事に多くの方が参加し交流している。ホーム独自に介護予防教室(こびりの会)を行っている。色紙絵や踊りのボランティアが来所し、利用者の活力を引き出している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	介護予防教室(こびりの会)、地域交流バーベキューや運動会、新年会などに参加して頂き理解に勤めている。認知症サポート養成講座を開催予定(地域の方から、またやって欲しいとの声があった)		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域代表、家族へホームの活動状況を報告、市職員に出席して頂き、要望やアドバイスをいただき今後の活動に繋げている。また、運営推進会議と避難訓練を組み合わせ家族に見学してもらい、消防士から講評をいただいた。	会議は事業所情報の紹介後、意見交換を行い具体的意見が出され活発になされている。災害時対応として地区の防災センター利用が提案された。他ホームと相互に職員が会議に参加し、関係事業所全体のサービス向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護予防教室の開催の依頼を受け継続している。また、8月には市主催の集団指導において、ホームの活動を発表して欲しいと依頼があり、これまでの活動状況や、地域住民との関りの意義を発表し他事業所へ伝えた。	運営推進委員である市の職員の方から福祉制度や地域の情報を得る一方、市役所へ出向き事業所行事の案内や報告を適時行っている。市から認知症サポート養成講座への参加依頼や事業所の活動発表依頼があるなど、良好な協力関係が築けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人内、ホーム内で研修が行われており、職員は理解し実践している。また、家族には契約時にそのリスクを説明して同意をいただいている。	法人のリスクマネジメント委員会が企画する研修に全員が参加し、意識の向上を図っている。帰宅願望の強い利用者にはその言動を禁止・否定せず、一緒に散歩して気分転換を図るなどの個別対応を行い、落ち着いて過ごせるよう支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内、ホーム内で研修が行われており職員はそれを理解し実践している。また、苦手な所はフォローし合い、利用者が穏やかに過ごせるように努めている。		

[評価機関 : 特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在は利用されている方はいないが、法人内、ホーム内で研修があり参加している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には説明をし、不安や、疑問点に関しては一つ一つ答え、納得して頂いてからサービスを利用して頂いている。入居後もその都度対応している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議、行事等への参加を促し来設時に伺っている。遠方の家族に対しては電話などで(毎月のお知らせは全員に発送している)細かい様子を伝え、要望等を伺っている。	面会や行事来所時には必ず声をかけ、遠方の家族には電話をかけるなど要望の把握に努めている。毎月の広報と共に「お知らせ」を作り、利用者の生活や体調について報告している。意見・要望はその都度検討し改善を図り、必要に応じてケアプランに反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の業務会議での意見交換、年3回の個人面談にて職員の現状把握に努めている。連絡ノートや、改善ノートの活用により、多くの意見が出るようになった。(共有出来ている)	春夏秋の年3回、個人面談を行い、個々の業務目標達成状況の確認や職場環境などへの意見を聞いている。連絡ノート、改善ノートを活用し、利用者の水分摂取方法を検討し合ったり、業務分担などの業務マニュアルの見直しに反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	希望休を受け優先している。管理者と職員間の信頼関係を深めるように、定期的に食事会を行っている。改善ノートには相手に対しての感謝や労いの言葉がたくさんあり、職場環境を良くしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員個々の経験、力量に応じた研修参加、資格取得を全面的にバックアップしている。ホーム内では毎月担当を決めて、勉強会を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	集団指導や、沿岸北ブロック会議への参加にて意見交換でき、ホーム内で伝講している。また、他事業所の運営推進会議に出席し、他ホームと、意見交換できている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	申請時、ケアマネ、家族から生活歴や困っている事を聞き取り、短期入居の利用で納得して頂いてから利用を勧めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前調査、可能であれば自宅訪問し家族が納得いくように説明し、分からない事があればいつでも対応出来るように電話番号を伝えている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前調査後、担当者会議を開催し本人にとって一番良い方法を話し合っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	調理の際は、魚のさばき方をお願いして教えていただいたり、味見をしてもらっている。職員の相談事に対しては、親身になって聞いてくださり、一緒に涙したり、励まして頂いています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	バーベキュー・運動会・敬老会・新年会の際は家族に連絡し、参加していただいている。昨年より、参加人数が増えた。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	通い慣れた病院・床屋、デイサービスへの外出等、できる限り継続出来るよう支援している。季節ごとのドライブでは、景色を観ながら、昔を思い出し当時の話を聞かせていただいています。	生活歴を大切にし、家族の協力も得て利用していたデイサービスや美容院に出向いている。以前の仕事の同僚や趣味仲間の方が面会に来所している。家族と外出・外食・墓参りされる方もあるが、限られる場合はホームとして家族に提案する事もある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合った同士で座ったり、困っている方を見ると職員に様子を教えてくれたり、自ら手助けする光景を目にします。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居された方の今後の受け入れ先を共に考え寄り添った。また、家族と職員の目標であった100歳のお祝いを、退去された後でも、病院で祝う事ができご本人、家族に喜ばれた。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人や家族からの聞き取りや訴えが無い方には普段の様子から察したり、BS法を用いてケアに繋げている。今年度からは課題整理総括表を作成し本人の隠れている気持ちをくみ取れるように努めている。	家族からの情報に加え、複数の職員で見守る事で、利用者の表現できないでいる気持ちを汲み取っている。利用者一人ひとりの特性・可能性を全職員が書き出し話し合うBS法により、出来る事・好きな事を明らかにし、伸び伸びと安心して暮らせるよう本人本位のケアに努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ケアマネ、家族から聞き取りをし、課題分析表に記入しできるだけ生活のリズムを変えないように安心して暮らせるように支援している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎月定期的にカンファレンスにて評価を行い、出来る事、出来ない事、好きな事、嫌がる事などを職員全員で話し合い、共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当ケアマネ、家族、サービス提供者から事前に聞き取りした結果から、問題抽出し入居後は、本人の発言、行動から気持ちを察し職員間で話し合い、実践に繋げている。状態の変化に応じその都度プランを見直している。	利用開始の初期プランは、好み・趣味や特性も加味し、本人にとって一番大切とする事柄を課題に設定している。日々の生活を皆で支援し、毎月の業務会議で話し合い、家族の意向も入れ、3ヵ月毎の見直しに反映させている。ケアマネ有資格者が3名おり、精緻な質の高い介護計画が作成されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	朝、夕の申し送りや職員間「申し送りノート」で情報を共有している。(見たら必ず印鑑)		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の希望や様子から、馴染みの場所に出かけたり、家族に会えるように段取りしている。また、外出の機会を設け気分転換に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティアのフォークダンス(根っこの会)、踊りの会(さくら会)の方に来ていただき、利用者も一緒に参加出来る時間が多かった。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	自宅にいた時のままの主治医に継続して通院している方も居る。また、病状によっては県立病院に紹介して頂いたり家族の希望により専門医を受診している。	地域の診療所へ職員が同行し8名が受診している。医師は一人ひとりの生活実態も十分理解している。1名は家族が同行して市内の開業医を利用し、ホームでの様子をメモして家族に託し、受診結果の報告を得ている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師と24時間連携しており、週1回の訪問看護師へ受診内容、日常の様子を報告。急変時には、状況を連絡し指示を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院治療が必要な場合には、主治医から県立病院を紹介され治療を受けるようになる。その際は医療連携室職員と連絡を取り合い病状を把握しホームに戻れるよう、または長期入院になる場合は、退院後の受け入れ先を確保し、安心して治療が出来るように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化に対する指針を入居時に説明し、同意をいただいている。個々の病状や主治医の判断によるが本人と家族の気持ちに寄り添い、その都度話し合い、相談をしながら本人にとって一番良い方法考え支援して行く。	入居時に重度化に対する指針によりホームでのケア方針等を説明している。診療所の医師や毎週来所する法人の看護師と連携し、最良の健康管理に努めている。法人として重度化・看取りの研修を行いながら、看取り実績はあるものの、利用者・家族との話し合いに際しては、家庭で家族に看取られる事を最善として対応している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ホーム内にAEDを設置している。状態が悪化している入居者に対しては個別の緊急時のマニュアルをあらかじめ作成している。また、ホーム内で「緊急時の対応」について勉強会を行っている。職員は全員、救命講習会を受けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回避難訓練を行い入居者に合った誘導方法話し合ったり、入居者が想定外の行動を取るかも知れないことを心得、訓練を行っている。自然災害を想定し避難場所までどれくらいの時間を要するか訓練を行った。	消防署員立ち合いで夜間想定も含む年2回の避難訓練の他、職員への緊急連絡・応召訓練を行っている。災害時の避難計画では法人母体のほほえみの里へ避難となっており、訓練では約30分で避難完了している。自動通報システムには消防・職員に加え近隣住民も登録されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	トイレ介助、移動介助の際は本人のプライドを傷つけないようにしている。特に便失禁の時は、入居者は職員の表情に敏感なので、本人の気持ちになり細心の注意を心がけ声掛けしている。	職員心構え「目配り・気配り・心配り」にの実践に努め家族の一員として接している。失禁時などプライドに配慮し、寄り添い、さりげない対応を行っている。利用者が安心して穏やかに生活するには、職員が豊かな表情や声を出して笑うなど、職員相互で指摘し、高め合っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	意思表示をできる方ははっきりと伝えてくるので、できる限り思いに沿うように努めている。できない方は、居室や、ドライブの車の中などで聞き取れるように配慮している。また、昼食にバイキングなどを行い、好きな物を選択していただいている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	帰宅願望が強い方に対しては、納得して頂けるまで寄り添って歩き、皆さんが歌や踊りが好きなので、一緒に歌ったり、踊ったりして一人一人の表情から気持ちをくみ取れるように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	地域の美容院の先生が定期的に来設しホームでカットをしている。パーマを希望される方には、馴染みの店に連れて行っている。また、買物に行き本人が希望される物を購入できるように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	旬の食材を使い、季節を感じ会話を楽しんでいます。職員と一緒にキッチンに立ち包丁を持つ人もあれば、すり鉢でゴマをする人もあり、味見をして頂いたり、魚をさばいてもらったり一緒に行っている。茶碗洗いや拭き方もお願いしている。	献立は利用者の希望も聞きながら、担当職員が工夫して立てている。利用者3人程と一緒に毎週食材購入に車で出かける。利用者は調理用エプロンを付け、下ごしらえや盛り付けに参加している。運動会・敬老会でも手作り行事食としてバーベキューも行き、家族や地域の参加者からも喜ばれている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取、水分摂取量は毎日記録し、不足している場合は好みの味でこまめに取れるようにしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	1日3回口腔ケアを行っている。上手にできない方に対しては、職員が丁寧にブラッシングし、清潔保持に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表にて排泄パターンを把握し、失敗しないように個別に声がけしている。また、夜間失禁が多い方は本人に合った尿とりパットを装着している。全員日中はリハビリパンツ、布パンツでトイレにて排泄している。	排泄チェック表により把握し、見守り・声がけ・誘導をしている。6人は、ほぼ自立で日中は全員リハビリパンツを使っている。下剤調整や海藻類・オリーブオイルの摂取で自然排便に取り組んでいる。夜間の動きの把握は、布団に鈴を付ける工夫をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表にて排便管理を行なっている。食物繊維の多い野菜、海藻類、きのこ類などを多く使い、水分摂取量の把握に努め牛乳は毎日提供している。何日も排便確認が取れない場合は訪問看護師に相談している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は毎日入れるように準備している。テレビに夢中になっていたり、拒否が見られる方に対しては時間をおき声掛けしている。	入浴は午後とし、週3回対応している。ラジカセで童謡唱歌を歌ったり、職員との会話を楽しんでいる。保湿効果のある石鹸を用いている。入浴を拒否する方には、時間を変えたり好物の食べ物(饅頭)の話をして気分転換を図り誘っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼食後、居室で横になって休む方や、気に入った場所で休息を取っている。夜間も室温や湿度の状況確認をし、体調を崩さず安心して休めるように努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	2ヶ月に1回薬剤師による薬剤勉強会に参加。個々の病名内服薬は把握している。状態により薬が変わったときは、連絡ノートに変った理由や考えられる副作用などを記入し、職員全員が共有出来るようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	掃除、洗濯物たたみ、食事の準備や片付けを一緒に行っている。また、馴染みの人や、友人との会話を楽しんでもらえるように、行事の際は地域の方々に参加していただいている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	食材購入のために一緒にでかけ、手伝ってもらっている。年に2回は外食をしに出かけたり、他ホームや、老健のイベントには参加し楽しまれている。また、本人の希望がある時は家族にも協力して頂き外出している。	春の花見、秋の紅葉など全員でドライブに出かけ外食を楽しんでいる。法人事業所でアニマルセラピーがある時には出向いて触れ合っている。新年会は近くにある国民休暇村を会場に、利用者・家族・職員が一堂に会し楽しんでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ホーム内持込は禁止しているが家族の了解のもと所持している方は買物に行った際、本人ができるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	希望があれば、電話を取り次いだり、不穏状態のときは家族の声を聞いて安心していただけよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースは自由に動けるように仕切りはなく、一目で全体が見渡せるようになっていいる。居間は日当たりも良くそれぞれが居心地の良い場所で過ごしている。天気の良い日はウッドデッキに出て歌を聴きながら日向ぼっこをする時もある。	広々としたホール兼食堂は天井が高く、彩かな布で作られた吊るし雛・魚が飾られ暖かさと華やかさがある。広いウッドデッキは高台のため海が眺望でき、夏はテーブルを出して食事をしている。台所は開放的で調理参加も容易にでき、匂いや音を楽しめる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ゆったり座れるソファ、畳み間、1人でゆっくり横になれる場所、お茶を飲みながら職員と会話ができるカウンター。季節ごとにディスプレイは気風している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	亡くなられた旦那様の位牌を置き、手を合わせる方もいる。家族の面会がある時は、写真を撮ってそれを、居室に張り、常に家族と繋がっている事を感じていただけるように工夫している。	ベッド・タンス・洗面台・パネルヒーター・エアコンが備え付けられ、加湿器により快適な環境が保たれている。誕生祝の色紙、家族写真が飾られ、位牌にお茶をあげている利用者もいる。移動図書館で本を借りて読むなど、それぞれ生活感豊かに過ごされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室が分からなくなる方には、目印をつけたり、頻回にトイレに行く方は、トイレに近い居室にし、失敗しないように工夫している。		